

2010/Spring

和's YAMATO

わす やまと

特集 坂本龍馬の軌跡 第一回
 ～明治維新はこの道から始まった～ 龍馬脱藩の道

話題 光の街まえばし 花と緑のぐんまづくり2010in 館林

お客様紹介 ●医療法人幸和会 美咲クリニック 様

名水探訪 群馬県 小幡郷の雄川堰(オガワゼキ)の水

名水探訪

第四回

小幡郷の
雄川堰(オガワゼキ)の水

群馬県甘楽郡小幡



旧小幡城下町を流れる雄川堰

雄川堰(オガワゼキ)は、小幡の城下町内に通された用水路で、古くから近隣住民の生活には欠かせないものでした。この水は、農業を始め多目的に利用され、日本名水100選に選ばれています。

小幡は、鎌倉時代から戦国時代にかけて、豪族・小幡氏の根拠地として栄えました。1615(元和2)年に織田信長の次男・織田信雄(おだのぶかつ)が徳川家康から上州小幡2万石を与えられ、8代15年にわたり織田家が支配した後、松平氏が入封し明治維新を迎えました。

甘楽町の旧小幡藩城下町の雄川堰、武家屋敷、石垣などの景観や養蚕農家の建物を後世に継承するため、同町では歴史的風致維持向上計画を策定。平成22年3月に、国土交通省などから同計画が認定されました。今後10年間で、国の補助を受け整備する予定です。

毎年4月第2日曜には、小幡郷二帯で桜まつり武者行列が開催され、鎧兜に身を包んだ武士たちが満開の桜並木のもとを練り歩くさまは壮観です。



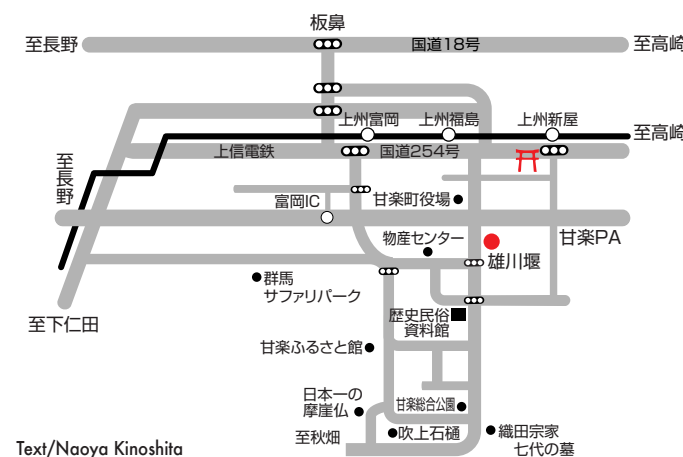
織田信雄公がこの地に着任した時、井戸を掘ったと言われています。



雄川堰沿いの道路は桜並木が続いている。



用水の中央で回転している装置は、野菜を水流で洗うために活用されていた。



Text/Naoya Kinoshita
 Photo/Keisuke Suzuki Naoya Kinoshita



武家屋敷「高橋家」。勘定奉行の役宅跡で、当時の面影を残している。

株式会社ヤマトPR誌
 和's YAMATO 2010 Spring/第4号 2010年4月 発行(春号)(季刊・年4回発行)
 発行/株式会社ヤマト(総務部) 群馬県前橋市古市町118
 TEL 027-290-1891 FAX 027-290-1896 URL www.yamato-se.co.jp



支店/東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎
 営業所/軽井沢、伊勢崎、茨城、太田、栃木市、湘南、東松山、新潟、長野、渋川
 関連会社/大和メンテナンス株式会社 株式会社埼玉ヤマト 株式会社ヤマト・イズミテクノス ヤマト・イー・アール株式会社 大和ビジネスサービス株式会社

わす やまと
 「和's YAMATO」の由来

ヤマトの漢字の和、Water & Airの頭文字を合わせてWA、Sはスタート、ヤマトが発信するメッセージです。

坂本龍馬の軌跡・第二回

明治維新はこの道から始まった――

龍馬脱藩の道

土佐の国境を超え
混乱の渦中に身を投じる



幕末を駆け抜けた風雲児・坂本龍馬の写真

幕末から明治維新へと、価値観が大きく変化する時代だったからこそ、下級武士の龍馬が薩長同盟・大政奉還の偉業に大きな役割を果たすことができたといえる。(写真提供 高知県立坂本龍馬記念館)



坂本龍馬が、「脱藩」という当時の重罪を犯してまで郷里の土佐を抜け出したのはなぜか。脱藩は土佐藩郷士の身分を失い、故郷や家族とも永遠の別れを意味するほどの重大事で、途中で発覚して捕まれば、最悪の場合死罪になる危険もあった。

江戸末期は、ペリーの黒船に代表される欧米列強の開国要求が頻発し、薩摩・長州藩をはじめ反幕府勢力が台頭する混乱の時代であった。幕藩体制の秩序が大きく揺らぎ、社会変革の波が押し寄せた時代に、土佐にとどまっていたは大国に飲み込まれる日本の国難を回避できない――。

熱き青年龍馬は、そう考えるに至った。その強い信念が坂本龍馬に「脱藩」を決意させた。しかし、脱藩直後の具体的な策は立っておらず、急変する世情に猶予の時はなし、と決断実行したものと推察される。

平成22年のNHK大河ドラマは「龍馬伝」。彼の時代を超越した先見性とスケールの大きな人物像は、幅広い層の日本人を魅了している。龍馬の骨太の人生と、現代でも色褪せること

のない発想力、行動力、生き方を辿りながら、理想を実現する人間の強さに触れてみたい。

剣術修行と見聞を広めるため 江戸に遊学

龍馬は天保6(1835)年、高知城下で坂本家の次男として生まれた。

坂本家は城下屈指の豪商・才谷屋(さいだにや)という商家の分家で、龍馬の五代前の当主が郷士の身分を買い、武士になったといわれている。

俸禄は十石程度と低かったが、坂本家には本家才谷屋から受け継いだ財産があり、裕福であった。士分ではありながら、先祖は商人で、社会・経済の動きに敏感だったともいえよう。また、社交的な家柄でもあったことは、龍馬の人間性をつくる上で見逃せない点である。

嘉永6(1853)年、龍馬は19歳の時に初めて江戸に遊学、京橋桶町(現在の東京都中央区)の千葉定吉道場に入門し、剣術修行に明け暮れる。

同年6月に、アメリカ東インド艦隊司令長官ペリーが、4隻の軍艦とともに神奈川県の大浦賀に現れ、幕府に開国要求を突き付けた。

幕府は江戸の沿岸警備を諸藩に命じ、土佐藩は品川周辺を担当。江戸に滞在していた龍馬は臨時の警護要員として駆り出され、その際ペリー艦隊の黒船を目撃したと考えられる。

翌年の嘉永7(1854)年に、剣術修行を終えた龍馬は土佐に帰郷、海外事情



龍馬記念館の屋上から広がる瀬戸内海

広大な太平洋を望みながら、龍馬の人間像をイメージしてみたい。



高知県立坂本龍馬記念館

ガラス張りの大きく突き出たユニークなデザインは、大海に乗り出す船をイメージしている。館内は鉄製の螺旋(らせん)階段でつながり、船内にいるような雰囲気味わえる。



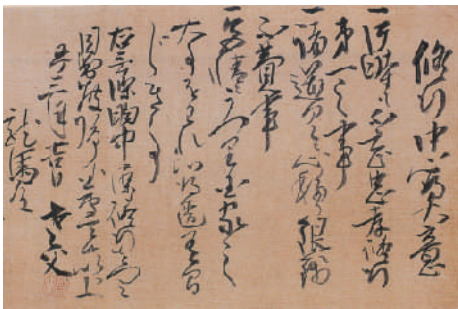
高知城の天守(左)と本丸御殿(右)

戦国時代の、土佐の領主は、長宗我部元親(ちょうそかべもとちか)であった。長宗我部氏は関ヶ原の戦いで西軍に加わり敗れて滅び、勝利した東軍の山内一豊(やまうちかずとよ)が掛川から移封し高知城を造る。山内家家臣は上士、長宗我部家臣は下士(郷士)と区分けされ、激しい身分差別があったという。下士である龍馬は、そうした身分差別の矛盾を感じつつ青年期を過ごした。



高知城天守閣より高知市内を望む

明治維新の時には、102の建物があつたと記録されているが、現在では本丸と追手門のみ現存している。近世以来の天守を残しているのは全国的にみても珍しい。



坂本八平直足書「修行中心得大意」(複製)

- 一 片時も不忘忠孝修行第一之事
 - 一 諸道具二心移り銀錢不費事
 - 一 色情ニうつり国家之大事をわれ心得違有間じき事
- 丑ノ三月吉日 老父 龍馬殿

坂本八平直足 寛政8～安政2(1796～1855)
龍馬の父。嘉永6(1855)年剣術修行の旅に出る19歳の龍馬に、父八平が手渡したもの。真物は京都国立博物館所蔵(国重要文化財指定)(高知県立坂本龍馬記念館提供)



龍馬のピストルと刀(複製)



桂浜

風が強く波が高いので、現在は遊泳禁止になっている桂浜。ここにははるか地平線を見つめる龍馬像が立つ。幼少時代、龍馬はこの浜で、姉の乙女(おとめ)と剣術の稽古に励んでいた。龍馬を育てた桂浜の雄大さは当時と変わらない。



坂本龍馬誕生地の碑

路面電車が通り車道がある、幹線道路沿いの歩道に立ち、写真を撮る観光客が足を運び、ここから歩いて3分ほどの場所には、「高知市立龍馬の生まれたまち記念館」などがあり、龍馬関連の様々な史跡を見ることが出来る。

に詳しい土佐藩絵師の河田小龍(かわだしよりよう)から、世界の情勢を聞き、おおいに啓発される。小龍は当時、ジョン万次郎からアメリカの見聞を聴取しており、海外通として特異な存在だった。彼の影響下、龍馬は世界に目を向ける素養を培い、日本と世界の関わり方に強い関心を持つようになる。

龍馬、ついに脱藩を決行



高知市内にある桜の名所・和霊神社に出かけた龍馬は、そのまま伊予へと向かう山道を急いだ。維新の門がある梶原まで、約80kmを1日で歩いたことになる。定説によれば、3月24日の夕刻出発した後、夜通し歩き、25日には梶原に着いたという。葉山街道は佐川町と旧葉山村を結び、標高554メートルの朽木峠（くちのきとうげ）を超える難所で、藩政時代から明治まで、幹線道路として多くの人々が往来していた。維新の門（梶原）がある那須俊平の屋敷を3月26日に出発した龍馬は葎ヶ峠を越え、約100km先にある瀬戸内海の長浜港に27日に辿りつき、その後下関へと向かった。



土佐と伊予の国境・萑ヶ峠

龍馬は、土佐勤王党の澤村惣之丞とともに文久2（1862）年3月24日高知を出奔し、25日に楠原に到着。その夜、楠原の勤王の志士須俣俊平・信吾父子の道案内により宮野ヶ番所をくぐり抜け、最大の難所・葦ヶ峠（のらうとうげ）を越えて、伊予の国（愛媛）へ脱出する。信吾は葦ヶ峠より引き返したが、俊平は同行し、小屋村（西予市:旧野村町）、水ヶ峠（大洲市:旧河辺村）を経て泉ヶ峠（内子町:旧五十崎町）に宿泊。27日、宿間村（内子町:旧五十崎町）に着いた。俊平はここから引き返し、龍馬と惣之丞は船で長浜町へ。28日にはさらに航路を使い、二日を要して三田尻（山口県）へ到着した。



茶堂(ちゃどう)

梅原町には、「茶堂」と呼ばれる茅葺屋根の小さな小屋が今でも点在している。元来は石像や木像が祀られ、住民の信仰の場であった。幕末になると、この地を訪れる客人をもてなす場所に使われるようになった。文化交流の窓口であり、情報交換の場として重要な役割を果たしていた。



勤皇の志士・吉村虎太郎の銅像

虎太郎は天保8（1837）年、「龍馬脱藩の道」の途中にある津野（つの）町で生まれ、土佐勤皇党に加盟した。龍馬の脱藩を手引きしたとする説があり、虎太郎は龍馬に先立って脱藩し、後に続いて脱藩する志士に最適なルートを示したともいわれる。



武市半平太(瑞山(すいざん))の肖像画

安政3(1856)年、江戸に剣術修行に出て尊王攘夷を志し、文久1(1861)年に土佐勤王派を結成する。翌年、公武合体派の土佐藩参政・吉田東洋を暗殺して藩の実権を掌握するが、京都で勃発した文久3(1863)年の八月十八日の政変で尊攘派が弾圧を受ける中、慶応1(1865)年に投獄の上、切腹を命じられた。(高知県立坂本龍馬記念館提供)



坂本龍馬脱藩の道

口伝によると、龍馬は家族に脱藩の決意を語ることなく、花見に行くと言い出けたらしい。その後、高知城下から西へと進み、山道を一日に80km以上歩いたともいわれる。現在では一部の山道の一部は「日本の道百選」に選定され、脱藩気分で歩むハイカーの姿が見られる。

土佐勤王党に加盟するも、藩を超えた結束に傾倒、脱藩へ

安政3(1856)年、龍馬は剣術砲術修業のため再び江戸に向かい、先に江戸入りしていた遠縁の武市半平太(たけちはんぺい太)と行動を共にする。武市は土佐藩を代表する尊王攘夷(王を尊び外敵撃退を主張する反幕府勢力)派の志士で、龍馬は武市からも強い影響を受けた。当時、江戸幕府と薩摩藩は開国派、長州藩は尊王攘夷派であり、両派は意見が分かれ激しく対立していた。

武市は文久1(1861)年、土佐勤王党を結成。土佐藩を尊王攘夷、反幕府勢力の主力とするべく活動に力を注ぎ、龍馬も同党に加盟する。しかし、土佐藩の実権を握る吉田東洋(よしだとうよう)は、尊王攘夷論を否定し、朝廷と幕府との融和を図る公武合体論を支持した。

文久2(1861)年1月、龍馬は武市の使者として、長州藩萩にいる久坂玄瑞(くさかげんすい)を訪ねる。その時、幕藩体制下の藩にとらわれず、尊王攘夷を目標とする藩の浪人の志士たちと結束を図るべきと示唆を受けている。

文久2(1861)年4月、武市の計画した吉田東洋の暗殺が実行された。この時龍馬自身は暗殺という手段は避けるべきであり、土佐藩全体を尊王攘夷でまとめるのは不可能と考えいたといわれる。そのため、武市との路線対立から、脱藩を決意したとする説もある。しかし一方では、当時の龍馬は尊王攘夷に疑問を示す



迫力を感じる「維新の門」群像

高知県梶原町の和田城址内にある。龍馬の銅像は右から二番目。龍馬の右隣りの那須俊平、左隣りの沢村惣之丞（さわむらそうのじょう）とともに、脱藩の道を歩む光景が表現されている。最奥部の銅像は梶原町の勤王志士・掛橋和泉（かけはしはるすみ）。



「千枚田」と呼ばれる棚田の風景（栲原）

司馬遼太郎氏が「中国の万里の長城より素晴らしい」と絶賛したとか。脱藩の道の途中、急に視界が開ける。

龍馬略年表(脱藩まで)

年	令	事項	関連事項
1835	天保6	① 11月15日、郷土坂本長兵衛(八平)の次男として、高知城下本町一丁目に誕生	● 全国各地に農民一揆や打ちこわしが起きる
1846	弘化3	⑫ 6月母幸没 ● この年小高坂の楠山塾に入門、間もなく退塾	
1848	嘉永元	⑭ 城下築屋敷の日根野弁治道場に入門し剣術を学ぶ	● 12月山内豊信(容堂)15代藩主に就く
1853	嘉永6	⑲ 3月「小栗流和兵法事目録」を受ける ● 剣術修行のため江戸へ赴き、江戸桶町の千葉定吉(周作の弟)道場入門する	● 6月ペリー浦賀に来航 ● 1月ペリー再び来航 ● 3月日米和親条約締結 ● 7月幕府は日章旗を日本国惣船印と制定
1854	嘉永7(安政元)	⑳ 土佐藩臨時雇として品川海岸警護につく ● 6月江戸より帰国 ● 7月、小栗流「和兵法十二箇条」同「二十五箇条」を受ける ● この頃河田小龍に会い、将来の方針について啓発される	● 7月長崎海軍操練所設置
1855	安政2	㉑ 12月父八平没	
1856	安政3	㉒ 8月再び剣術砲術修行のため江戸へ向かう	● 4月井伊直弼、大老に就く ● 7月安政の大獄
1857	安政4	㉓ 8月山本琢磨の懐中時計拾得事件が起きたが、龍馬の才覚で琢磨を逃亡さす	● 豊信隠居、豊範16代藩主に就く ● 8月土佐勤王党結成
1858	安政5	㉔ 1月千葉定吉より「北辰一刀流長刀兵法目録」を受ける ● 9月江戸より帰国 ● 11月立川関で水戸藩士住谷寅之助、大胡津蔵と会談 ● 砲術家徳弘考蔵に入門し西洋砲術を学ぶ	
1859	安政6	㉕ 9月頃、土佐勤王党に加盟する	
1861	文久元	㉖ 10月剣術修行と称して、丸亀の矢野市之丞道場を訪ねる	● 4月執政吉田東洋暗殺 ● 10月幕府に攘夷を促すため三条実美、姉小路公知が江戸へ
1862	文久2	㉘ 1月武市半平太の使者として、萩の久坂玄端を訪ねる ● 3月澤村惣之丞と脱藩する ● 秋ごろ勝海舟を訪問し門下生となる。その後土佐藩の同志を次々と海舟の門下に入れる	

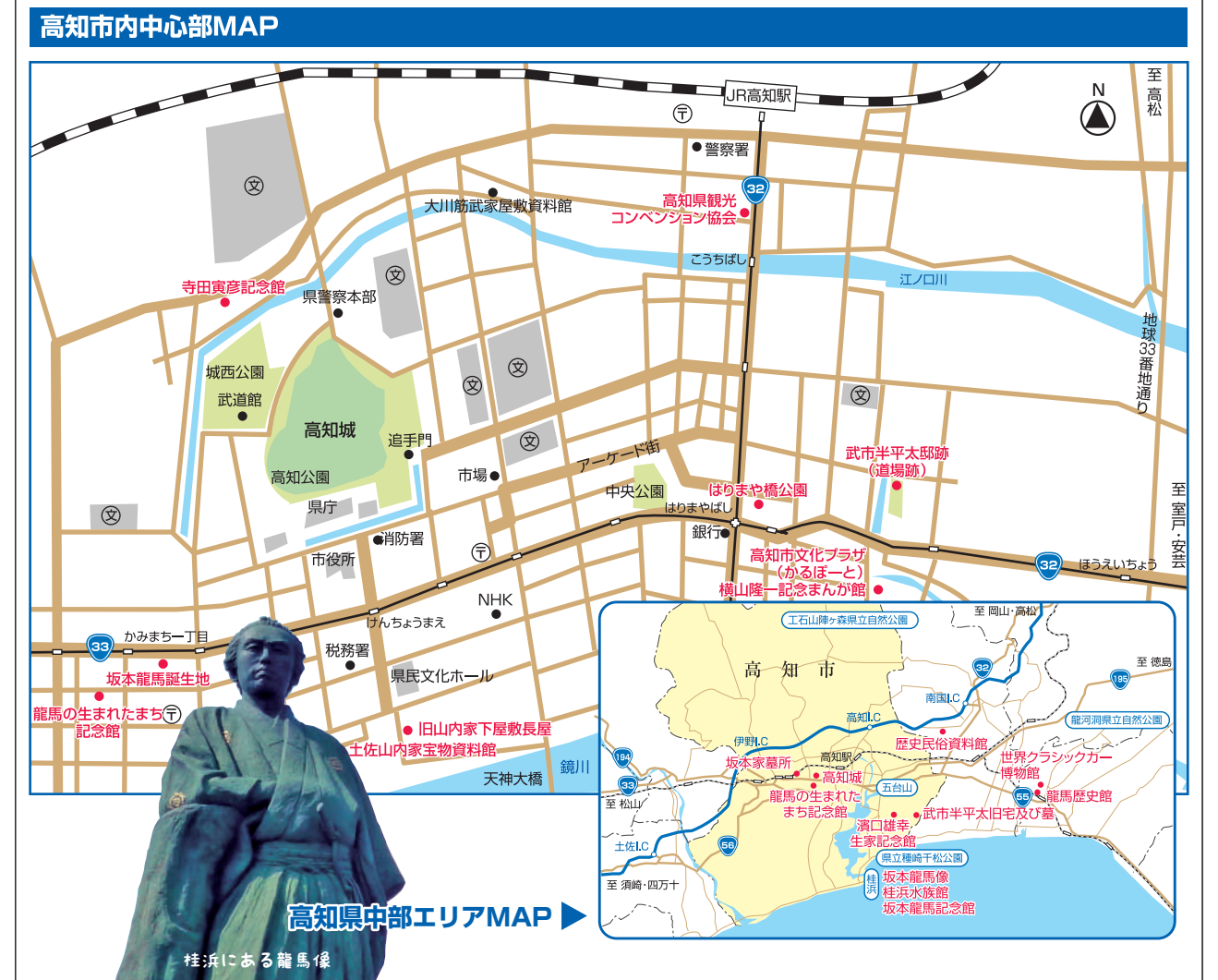
脱藩の道は、瀬戸内海を渡り長州・下関へ

土佐を飛び出した龍馬は、慶応1(1865)年の海運商社「亀山社中」設立、慶応2(1866)年の薩長同盟仲介、慶応3(1867)年の「船中八策」立案、大政奉還を実現に導くなど、同年33歳で暗殺されるまでの5年間、明治維新実現のために東奔西走の活動をする。龍馬が脱藩していなかったら、今の日本は存在しないと言っても過言ではないだろう。(次号に続く)



Text/Naoya Kinoshita
Photo/Naoya Kinoshita Eiichi Harada 参考文献/案内図録(高知県立坂本龍馬記念館 発行)

「龍馬ゆかりの地」を訪ねる 高知周辺ガイドマップ



高知といえば「カツオのたたき」



ラベルに「龍馬」

桂浜にある食堂や土産物店には、ご当地ビールの「龍馬ビール」が置いてある。地ビールにしてはスッキリとした後味で、地元名産のカツオのたたきと相性が良い。



桂浜で出会った「龍馬ビール」

ぷちなび
kochi katsurahama

花と緑のぐんまづくり 2010 in 館林 ～ふるさとキラキラフェスティバル～ 5月23日まで

館林のつつじが岡公園のつつじ。4月下旬から見頃となる。



館林市役所付近を流れる鶴生田川沿いで、5月10日まで「世界一こいのぼりの里まつり」が開催されている。茂林寺などを含めこの付近4会場での掲揚数は5,000匹を超え、国内最大の掲揚数として、ギネスブックに認定されている。



高崎市・鼻高展望の丘のシバザクラ。花と緑のぐんまづくりフェスティバルのサブ会場となっている。

Text/Naoya Kinoshita
Photo/Norio Ishimori Naoya Kinoshita



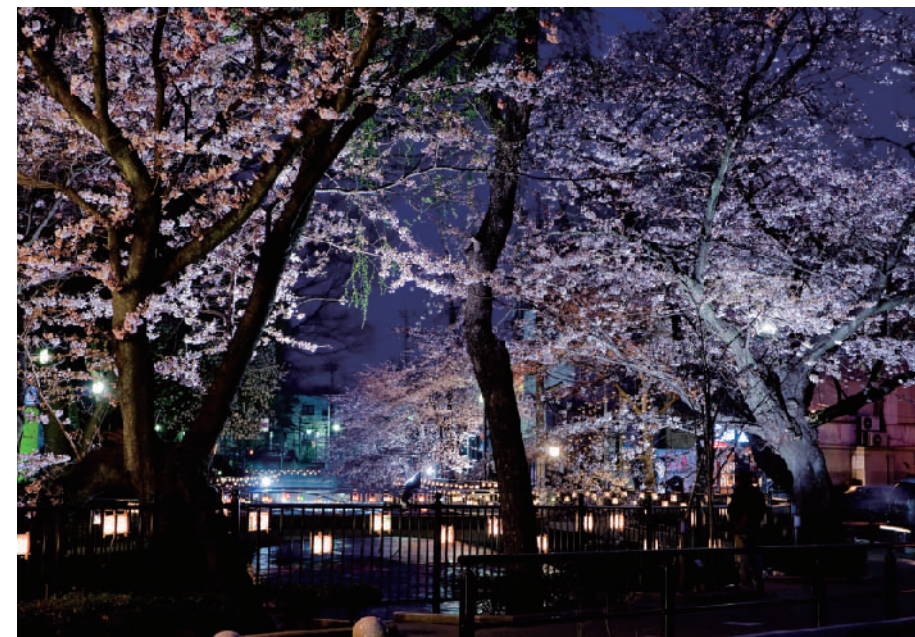
東武鉄道館林駅前の広場は、色鮮やかな花々で美しく飾られ、駅前通り一帯には70種・7万株が植えられている。

群馬県では、平成20年に開催された全国都市緑化ぐんまフェアの理念を、途切れることなく実践しています。群馬県内の各地域を花と緑に囲まれた、美しく活気のある地域にするため、「花と緑のぐんまづくり推進事業」に力を注ぎ、(株)ヤマトも、このイベントに協賛しています。

このイベントは、毎年県内の各市持ち回りで開催されてきました。昨年は高崎市が会場となり、今回は館林市街地が美しい花や緑で彩られています。

東武鉄道館林駅から館林市役所までの沿道に花々が飾られています。また、敷島公園のバラ(前橋市)、鼻高展望花の丘の菜の花(高崎市)など、県内64ヶ所がサブ会場として登録されています。

この春、群馬では色とりどりの花々が、鮮やかに咲き誇っています。

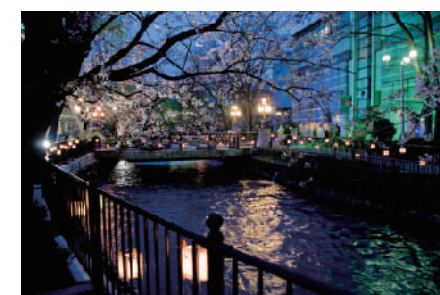
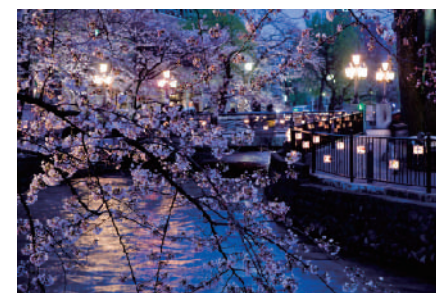


広瀬川沿いの幽玄な夜桜



主催 | 光の街まえばしプロジェクト
後援 | 前橋市・前橋商工会議所
(財)前橋観光コンベンション協会

●点灯期間 2010 3/28～5/9
●点灯時間 18:00～24:00



川に沿ってランプが揺れる。

TOWN
of
LIGHT
MAEBASHI

光の街まえばし 5月9日まで点灯

春の風物詩・前橋のイルミネーション「ひかりの街 まえばし」プロジェクトが広瀬川沿いで開催されています。

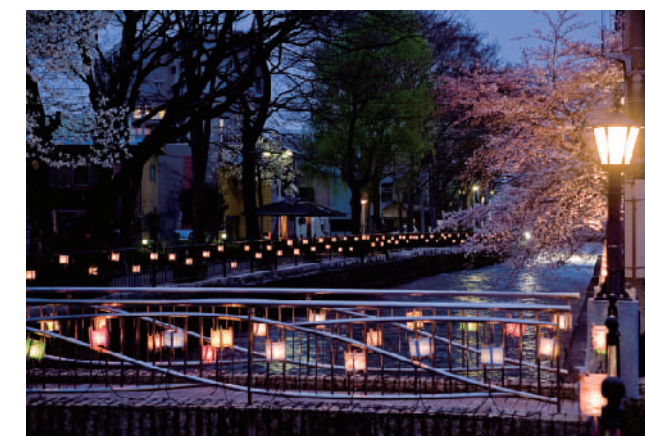
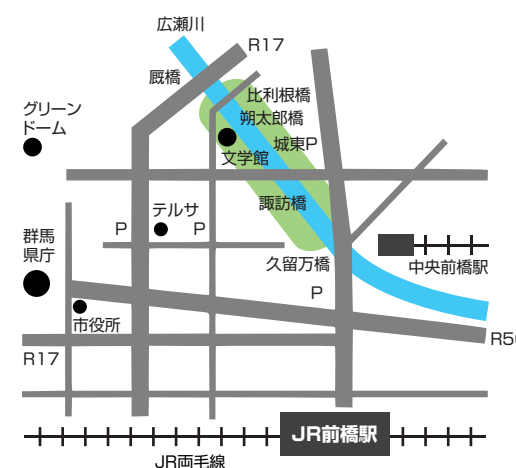
座繰りの糸巻きをイメージした1300個の「小粋ランプ」が川面を照らし、夜の前橋中心部を華やかに演出。夜桜を眺めつつ、ゆつくりと散策を楽しむ人々の姿が見られます。

広瀬川河畔には前橋文学館をはじめ、日本初の機械製糸場の碑、レンガ倉庫などが点在。明治時代の文化にも触れることができます。

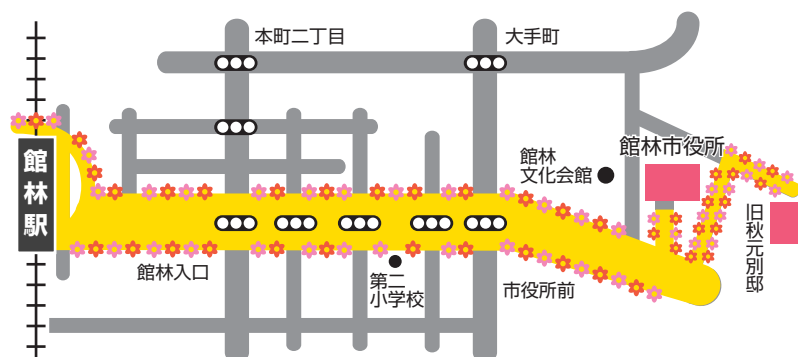
ランプの光源は消費電力の少ないLEDで、川の流れを電源に利用し、地球環境に配慮しています。(株)ヤマトは、このプロジェクトに協賛して、「地球環境と共生する前橋」づくりを支援しています。

光の街まえばしへのアクセス

[広瀬川河畔] 前橋市千代田町3丁目12番



レトロな「小粋ランプ」が幻想的



<東武鉄道館林駅までのアクセス>
JR東北線久喜駅で東武伊勢崎線に乗り換え約30分
JR両毛線伊勢崎駅で東武伊勢崎線に乗り換え約1時間



主催/花と緑のぐんまづくり推進協議会

「美咲メディカルコア」は時代の先端をいく省エネ施設

エネルギー消費量は 同規模建物の約半分に

2008年4月に開設した「美咲メディカルコア」には、大温度差蓄熱空調システム、外断熱工法などをはじめ、省エネ対策が施されています。

美咲クリニック院長の今野俊幸先生は、竣工後2年を経過した省エネ実績の報告をヤマトの担当者から聞き、「初期投資はかかりましたが、省エネを実践することは、経済効果に加え、地球環境に貢献するという観点で、大変有意義です。

ヤマトさんをお願いして、予想以上の省エネ効果に感謝しています」と評価してくださいました。

美咲メディカルコアに導入されている省エネシステムは下記の通りです。

- ① 高効率大温度差蓄熱空調システム
- ② 自然冷媒ヒートポンプセントラル蓄熱給湯システム
- ③ ヤマト広域遠隔管理ネットワークシステム (TASKPLUS)
- ④ RCB外断熱工法
- ⑤ LOW-Eペアガラス
- ⑥ 高効率照明 (Hf蛍光灯・人感センサー)
- ⑦ 屋上緑化
- ⑧ 交流変周波数エレベーター

「健康長寿」と「アンチエイジング」の 医療を実践する 美咲メディカル・コア

健康で、生き甲斐を持って人生を送ることを真の幸せと考える今野院長。「健康長寿」と「アンチエイジング」を実践し、抗加齢医学を取り入れて心身の健康を追求する施設が美咲メディカル・コアです。今野院長は、同施設開設の目的を次のように語ってくれました。

病気を治すことで医療機関の役割が終わるのではなく、患者さんが生き甲斐を見いだして歩み始めるのを見届けてこそ治療が完結するのです。また、「健康長寿」を実現するためには、「アンチエイジング」と呼ばれる予防医学が必要です。「美咲メディカル・コア」の2階にある「メディカルフィットネスソレイユ」は、メタボリックシンドロームの予防と治療のために、健康増進を図る施設です。単に長寿を目指すのではなく、病気にならないように心身をケアし、希望と感動に満ちた人生を送ることこそ真の幸せであると思います。「健康でありたい」という意欲を持つていただくサポートをするのが私の役割です。



今野俊幸院長



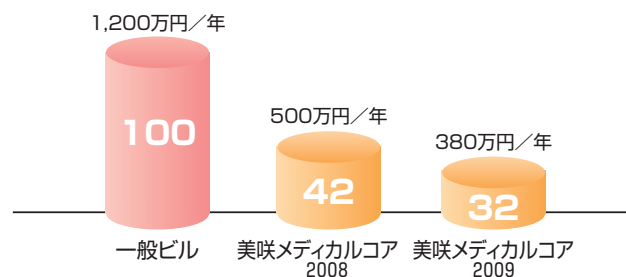
1階のロビー

最新鋭マシンを導入したメディカルフィットネス ソレイユ

住 所 / 山形県鶴岡市美咲町25-5 駐車場 55台
 お問い合わせ先 美咲クリニック (美咲メディカル・コア1階) 0235-23-7633
 美咲アンチエイジングセンター メディカルフィットネス フォンティヌ (美咲メディカル・コア2階) 0235-29-4550
 美咲アンチエイジングセンター メディカルスキングア ソレイユ (美咲メディカル・コア2階) 0235-29-4590 URL <http://www.misaki-mc.com/index.php>

ランニングコスト

美咲メディカルコアビルは、一般ビルのおよそ32%のランニングコストとなっています。

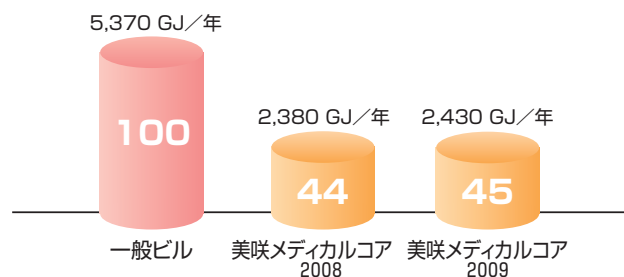


施設概要

施設名称 美咲メディカルコア
 所在地 山形県鶴岡市美咲町25-5
 建物概要 鉄筋コンクリート造4階建 3143.42m²
 用途 診療所、メディカルフィットネス、メディカルスキングア
 RCB外断熱工法下地50×100タイル直接貼
 竣工 平成20年4月7日
 設計・統括監理 (有) 橋本建築設計室
 構造設計・監理 (株) 建構造研究所
 機械電気設備設計監理 (株) ヤマト
 施工者 (株) ヤマト (株) 佐藤工務

エネルギー消費量

美咲メディカルコアビルは、一般ビルのおよそ45%のエネルギー消費量となっています。



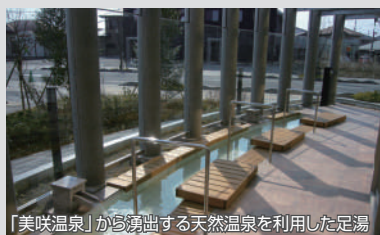
システム概要

空調熱源 高効率大温度差蓄熱空調システム (全蓄熱) 空冷ヒートポンプチラー50馬力相当×2基
 蓄熱槽 水蓄熱槽 200m³
 空調機 ファンコイルユニットに省エネルギー機器 (大温度差型) を採用
 空調ポンプ ポンプをインバーターに変流量制御することで搬送動力を削減
 給湯熱源 夜間に蓄えた温水を昼間床暖房に利用しエネルギーコストを削減
 自然冷媒ヒートポンプセントラル蓄熱給湯、温泉昇温システム
 エコキュート20馬力相当×2基
 BEMS導入 (省エネチューニング)

遠隔監視



屋上の蓄熱システム



「美咲温泉」から湧出する天然温泉を利用した足湯



美肌効果のある「美咲温泉」を掛け流しで利用している施設内のバスルーム

城下町 鶴岡の名所紹介



鶴岡市内から望む月山



到道館の外観。寛政異学の禁 (1790) の後、諸藩が幕府の方針に従い朱子学を藩学とする中で、庄内藩は独逸 (おぎゅうそらい) の提唱する但徠学を廃校まで堅持した。

庄内藩校 到道館

庄内藩の土風の刷新と、優れた人材の育成を目的に、文化2年 (1805) 酒井家九代目藩主・忠徳公が創設した藩校です。但徠学を教学とし、自主性を重んじた教育方針で、各自の天性に応じ長所を伸ばすことに主眼がおかれ、質実剛健な教育文化の風土を育む土壌となりました。現在は、表御門、聖廟、講堂、御入間などが残っており、建物は現存するものとしては東北地方唯一のもので、歴史的、文化的にも価値が高く、国指定史跡となっています。



大宝館の外観。大正時代に建てられた洋風建築に倣う建物で、現在は鶴岡の生んだ偉人である高山樗牛 (たかやまきゆう) の横光利一 (よこみつりいち) など人物資料館として公開中。

鶴岡公園

酒井家が庄内藩主として約250年来居城とした「鶴ヶ岡城」跡です。敷地内の堀や石垣、樹齢数百年の老杉が城の名残を感じさせます。また、文化財や史跡が集中するこの一帯は、藤沢文学の「海坂藩」の舞台にもなっており、城下町の風情が色濃く残っています。



鶴岡市立藤沢周平記念館

「蟬しぐれ」、「たそがれ清兵衛」など、数々の名作を生み出した作家・藤沢周平氏の作品世界と生涯を紹介する「鶴岡市立藤沢周平記念館」が平成22年4月29日 (木) に開館します。常設展示 第1部:「藤沢文学」と鶴岡・庄内＝ふるさとの豊かな自然とその歴史や文化に影響を受け創作された作品を重ね合わせ、藤沢文学の原風景である鶴岡、庄内の各所を映像で紹介。第2部:「藤沢文学」のすべて＝東京の自宅にあった書斎を移築し、愛用していた身の回り品を配し再現。直筆原稿や創作メモなどの資料を交え、作品をジャンルごとに解説。第3部:「作家・藤沢周平」の軌跡＝エッセイで語られた言葉を通じて、故郷の人々たちとの交流、作家になるまでの道のり、日々の暮らしを紹介。

交通案内 バス ● JR鶴岡駅より約10分、「市役所前」下車徒歩3分
 車 ● 山形道鶴岡ICより約10分／庄内空港より約25分

Text/Naoya Kinoshita
 Photo/Norio Ishimori Naoya Kinoshita